

ブロック1 (3期)

課題 No.11

「見かけ上は…」



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となる場合がございますのでご注意下さい

解剖学教室

川島 友和・本多 祥子・佐々木 宏

整形外科学教室

金 強中

私達は、これからからだを巡る調査の旅に出発しよう。まず、最初に“おなかの中”をみてみよう。

まず、目に飛び込んでくるのが、複雑にぎっしり詰まった、表面が湿って赤い筋が多数走っている配管だ。しかし、配管は決して絡まっている様子はなく、じっとしていない。さらに配管の全周をめぐるうとすると元の位置には戻らない。

【抽出されると思われる事項】

- ・ 配管 → 消化管の構造と機能
- ・ 複雑にぎっしり詰まった → 1本の連続した消化管であり、腹腔を有効利用している
- ・ 表面が湿っている → 漿液
- ・ 赤い筋が多数走っている → 血管
- ・ 絡まっていない → 消化管の回転、正常発生
- ・ 元の位置には戻らない → 腸間膜の存在
- ・ じっとしていない → 蠕動運動

シート2

私達は偶然小さな孔を見つけて中へ入った。

壁にはどこも、薄手のカーテンがかかっており、透けて外の様子は見える。

天井には太いパイプがあるようで、1日に少なくとも2~3回騒がしくものが通過し、その時は天井が抜けそうになる。

左手には、奇妙な赤黒い工場がそびえ立ち、煙突のようなものがその先に見える。

突き当たりには、大きな丸いドーナツ状のものが見える。これも工場のようなのだ。

右手には、パイプが走り、時おり騒音が聞こえる。

どうやらここは行き止まりの部屋になっており、やっとのことで元の入り口を見つけたことができた。

一体全体どのようにして、こんな行き止まりの部屋ができたのであろうか？

【抽出されると思われる事項】

- ・ 部屋→網囊
- ・ 薄手のカーテン→腹膜
- ・ 太いパイプ→胃
- ・ 2~3回騒がしくなる→糜粥の通過
- ・ 赤黒い工場→肝臓
- ・ 煙突→食道
- ・ 右手のパイプ→横行結腸
- ・ 丸いドーナツ状の工場→脾臓
- ・ 入口→網囊孔
- ・ カーテン→腹膜<1枚でない(2~4枚)>
- ・ どのようにしてこんな部屋ができたのか？→消化管の正常発生

シート3

やっとのことで脱出できた私達は次に別の場所を調べることにした。

その結果、他にも見かけ上1枚の膜やそれによって形成される腔所があることに気づいた。

ヒトの“からだ”って場所が違ってても、基本的には同じつくりになっているね。

【抽出されると思われる事項】

- ・ 1枚に見える→1枚でない (大網：4枚、腸間膜：2枚)
- ・ 基本的に同じつくり→腹膜の構成 (臓側腹膜、壁側腹膜)
腹膜腔 (左右)、胸膜腔、心膜腔、髄膜腔